

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 34, No. 11 November 1988

泌尿器科紀要

第34巻 第11号 1988年11月

第37回 日本泌尿器科学会中部総会

ラウンド・テーブル・ディスカッション

- I. 実験操作による抗癌剤効果判定……………司会のことば 吉田 修…1871
- 尿路性器癌に対する各種抗癌剤感受性試験の検討……………打林 忠雄・ほか…1873
- 腎細胞癌に対する化学療法 —基礎的検討と臨床効果—……………神田 英憲・ほか…1879
- 実験的膀胱腫瘍モデルを用いた抗癌剤効果判定……………平尾 佳彦・ほか…1885
- ラット膀胱発癌における各種抗癌剤膀胱内注入の影響……………岡村 武彦…1895
- ヌードマウス移植ヒト辜丸腫瘍を用いた抗癌剤感受性試験と臨床成績……………三木 恒治・ほか…1903

- 前立腺癌および辜丸腫瘍の化学療法:
より有効な治療法を目指した *in vitro* および *in vivo* 実験での検討 ……岡田謙一郎・ほか…1911
- Human tumor colony forming assay による抗癌剤感受性試験について……………金丸 洋史・ほか…1917
- 膀胱癌の動物モデル —抗癌剤効果判定試験へのアプローチ—……………福島 昭治…1923

- II. Male fertility の諸問題……………司会のことば 片山 喬…1929
- 精子濃度算定における Makler 精子濃度計算盤の効用……………友吉 唯夫・ほか…1931
- 精索静脈瘤診断上の問題点……………友吉 唯夫・ほか…1935
- 両側精巢生検組織像の比較検討……………友吉 唯夫・石田 章…1939

- 精子形成障害の内分泌学的背景 —ライディヒおよびセルトリ細胞機能の *in vivo* および *in vitro* での評価—……………奥山 明彦・ほか…1943
- Male fertility の諸問題 —組織学的考察—……………三宅 弘治…1949
- 男子不妊症患者の精巢生検組織像と造精機能評価……………山口 安三・ほか…1953

- 精子からみた問題点
—とくに精液検査の正常値と妊孕力の評価に関する検討—……………松本 修・ほか…1959
- 受精能獲得用培地におけるヒト射出精子の運動性におよぼす精漿の影響
—全精液および分割精液から得た精漿による検討—……………眞田 俊吾・ほか…1965
- 男子不妊症における精漿中銅濃度
—特にホルモン療法による影響について—……………渡瀬 秀樹・大田黒和生…1973
- 男子不妊症治療面からの問題点……………寺田 為義…1979
- 精索静脈瘤を伴う乏精子症患者の治療の検討……………篠田 正幸・ほか…1989

【原著】

- 特発性男子不妊症の精漿の形態学的研究
—Leydig 細胞の定量化およびその超微細構造について—……………橋本 純一・ほか…1995
- Test Size による辜丸計測……………田島 政晴…2013

【症例】

- 副腎骨髄脂肪腫の1例……………桑原 孝・ほか…2021
- 同時に発見された稀なる重複癌(無症候性副腎皮質癌と尿管癌)の1例……………引地 功侃・ほか…2025
- 成人にみられた後腹膜腔原発の良性奇形腫の1例
—超音波断層法, CT および核磁気共鳴をもちいた断層法による画像(英文)……………平野 章治・ほか…2031
- 膀胱印環細胞癌の1例……………北村 雅哉・ほか…2035
- 尿道平滑筋腫の2例……………遠坂 頭・ほか…2041

【統計】

- 兵庫医科大学泌尿器科学教室における1986年の臨床統計……………生駒 文彦・ほか…2047

【治験】

- 膀胱腫瘍に対する制癌剤膀胱注療法および OK-432 (全身投与) の併用療法による再発防止効果の比較検討……………西尾 正一・ほか…2053
- LH-RH analogue ICI 118630 (Zoladex®) の前立腺癌患者に対する長期投与時の臨床効果の検討……………宇佐美道之・ほか…2059
- 慢性前立腺炎患者におけるエノキサシンの前立腺液移行について……………田中 国晃・ほか…2067

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 8,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772 番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1988年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文 5 頁 (400 字 × 20 枚)、図 (Fig.) 10 枚、表 (Table) 10 枚までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文 3 頁 (400 字 × 12 枚)、図 (Fig.) 5 枚、表 (Table) 3 枚までとする。
 - (3) 和文原稿は B 5 版 400 字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め (ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
ワープロを使用する場合も B 5 版原稿用紙に 1 枚 20 × 20 字とする。
 - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名 (教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。下段に筆頭者名と、2 語からなる running title を付記する。
例：山田、ほか：前立腺癌・PSAP
 - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5 語 (英文) 以内の Key words、抄録本文の順に B 5 版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (6) 英文原稿は A 4 版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず) の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (7) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μg, %, °C などとする。
 - (8) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1. ..., Fig. 2. ..., Table 1. ..., Table 2. ... などと一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい (コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印 (直接写真に貼付) などを入れ、わかりやすくする。
 - (9) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる (アルファベット順不可)。その数は 30 までが望ましい。和文は楷書で、欧文 (ワープロ可) はダブルスペースでタイプする。
例：山田^{1,2,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると...

雑誌の場合—著者名 (全員)：標題、雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年

例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. *J Urol* 124: 205-207, 1980

例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修: 経皮的腎砕石術 (PNL) および経尿道的尿管砕石術 (TUL) にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987

単行本の場合—著者名 (全員)：標題、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976

例4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編，第1版，pp. 259-301，南江堂，東京，1986

- (8) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残し，オリジナルを書留で送付する。
(原稿送付先)

〒606 京都市左京区聖護院山王町18

メタボ岡崎 301号

泌尿器科紀要刊行会宛

- (9) 論文の採否：論文の採否は編集委員で決定し，連絡する。
(10) 論文の加筆訂正：審査の結果，編集方針にしたがって原稿の加筆，削除，および一部の書き直しをお願いすることがある。また，編集委員の責任において多少字句の訂正をすることがある。
(11) 校正は初校を著者による責任校正とし，再校以降は編集部が行う。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
(12) 投稿にあたっては，本誌を十分参考にして体裁を守ること。
3. 掲載
- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。
迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。
(2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
(3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については，掲載料を別途に申し受ける。
4. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer•PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

編集委員： 吉田 修(委員長) 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重
新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

泌尿器科紀要 第34巻 第11号 1988年11月25日 印刷 1988年11月30日 発行
発行所 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301号 電話 (075) 752-0100
FAX (075) 752-0190
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
